

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (マネジメント)	氏名 (Author)	修 一
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title) 日本語の視点類型に関する研究 － “意義性の俯瞰的把握” を中心に－			
論文審査担当者 (Dissertation Committee) 主査 (Committee chair) 教授 盧 涛 審査委員 (Committee member) 准教授 松嶋 健 審査委員 (Committee member) 教授 小柏 葉子 審査委員 (Committee member) 教授 白川 博之			
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)  1. 概要 言語研究は、長い間言語構造の記述と分析に重きが置かれて行われ、Howの問題を部分的に解決できたが、Whyの問題に答えられなかった。Whyの問題に答えようとする、20世紀半ばから流行った形式主義的なアプローチ（例えば生成文法）とあいまって、後に隆盛を見せたのは、機能文法、認知言語学などが主流となる機能主義的なアプローチである。中でも、言語化の主体の捉え方いわば「視点」の視座から言語構造の動機付けを求めようとする動きが注目され、池上嘉彦氏等によって考案された主観性（主体性）を主眼とする視点研究が代表的な存在となる。本研究は、高度な日中英三言語の運用能力を駆使し、視点研究を中心とする先行研究を体系的且つ批判的に把握し、主観性のアプローチの問題点を鋭く指摘した上で、「意義性の俯瞰的把握」という視点類型を提示し、英語と中国語と有機的に関連付けながら、日本語における特徴的な言語化現象の動機付けの解明を試みた。具体的には、自称詞などの多様な話し手の言語化、自発・可能・受動・尊敬を表すとされる「られる」に内在する意義性的関連、「は」による主題化と名詞の述語化、対人関係が絡んでいる発話モード、伝達モード及び文体の使い分けなどをめぐって、「意義性の俯瞰的把握」という分析モデルの有効性を立証した。  2. 論文の構成 本論文は、序章と終章を含めて8つの章より構成されている。以下は各章の概要である。 第1章「序章」では、研究背景、問題意識、研究目的及び本研究の構成を述べている。 第2章「本研究と関連する主な先行研究」では、本研究に用いられる言語学理論の重要な用語を定義づけ、整理した上、視点類型に関する主要な先行研究を紹介しつつ、主観性(主体性)のアプローチの問題点を指摘する。 第3章「意義性の俯瞰的把握のモデル」では、具体的な例示に基づき、意義性、意義性化、事			

態志向、意義性志向、俯瞰的把握といった本研究のコア概念を説明し、本研究の「意義性の俯瞰的把握のモデル」を提示している。

第4章「意義性の俯瞰的把握から見た日本語の話し手の言語化に関わる諸問題」では、「この俺」のような英語と中国語に見られない自称詞の用法、「俺」と「僕」と「私」のような自称詞の使い分けなどのケースをめぐって、話し手の言語化の動機付けを求めた。

第5章「意義性の俯瞰的把握の主体の別格性による言語形式」では、「られる」の多機能化と「授受構文」の成立から、主体の「別格性」に起因する日本語の統語構造を分析している。

第6章「特殊な意義性化の諸言語形式」では、「ネクタイする」にみられる「ネクタイ」の述語化や「は」と「が」の使い分けに現れる日本語独特の言語化現象を取り上げ、意義性の俯瞰的把握に潜む意義性化の原理を説明している。

第7章「話し手と聞き手の関係管理と関わる日本語の言語形式」では、「だ」体と「です」体の文体の使い分けや、「よ」、「ね」、「か」、「な」及びその複合形式の終助詞を例に、対人関係の処理に起因する言語化を解釈している。

第8章「終章」では、本研究の結論と今後の研究課題を提示している。

### 3. 論文に対する評価

本研究は、以下の3点より評価される。

第一は、日本語における多様な言語表現（言語化）のケースを取り上げ、統一的で体系的な動機付けの追究が行われ、今後「意義性の俯瞰的把握」という新しい理論モデルの援用・引用が期待される。

第二は、いくつかの新しい概念を創出し、明確に定義づけた結果、日本語以外の言語体系の分析に活かされるだけでなく、言語理論全体の修正・再構築に寄与可能である。

第三は、豊富な日本語の言語表現の例示と分析及び英語、中国語との比較対照の試みは、日本語教育ないし英語、中国語の言語教育の改善につながる実践的意義も認められる。

以上、審査の結果、本論文の著者、**佟一**は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。